

令和2年度 ESD 推進校 実践のまとめ



多摩中学校



多摩第一小学校



東寺方小学校



多摩中学校区



令和2・3年度 ESD推進校 取組概要



1 取組方針

「持続可能な社会の創り手（人材）」を育成するために、ESDで育てたい力として中学校区で共通の資質・能力を掲げて、小学校の学びが中学校につながるよう教育課程の改善を図る。また、教育課程にSDGsを位置付け、教科等や学校種間において横断的に幅広く SDGsを踏まえた教育活動を展開し、SDGsへの児童・生徒の意識を高める。

2 取組設定の理由

自分たちが住む地域の社会や環境を中心とした課題を入口として、身近なところから取り組むことで、課題解決につながる新たな価値観や行動のアウトプットを生み出し、持続可能な社会の創造に主体的に関わっていくことのできる児童生徒の育成を目指す。

3 ESDを通して育成する資質・能力

- 【知識・技能】情報を取得し、分析、活用する能力
- 【意思・態度】自己調整力・合意形成し協力・協働する態度
- 【探求する力】地域や社会の活動に参加する力（社会参画力）
- 【思考力】論理的な思考力（順序立てて考える力）

4 実践のポイント

多摩第一小学校では生活科や総合的な学習の時間で、身の回りの自然環境や人々と直接関わる体験活動を重視し、自分事として課題に取り組む学習を展開している。各教科では、様々な形でお互いの考えを交流し合う機会を設け、今までとは違うものの見方に気付かせたり、新しい発見をさせたりしている。

東寺方小学校では、育成する資質・能力に焦点を当て、具体的な手だてをとることに取り組んだ。総合的な学習の時間や生活科で生かされたり、培われたりする資質・能力と教科の中で育てたり、活用されたりする資質・能力を関連させ、教科を横断的に捉えることで学んだことをアウトプットできる力の素地を育てていきたいと考えた。

多摩中学校では、小学校の取り組みを受けて、身近な地域から段階的に、多摩市、東京、日本、と視野を広げていけるような取り組みを設定している。地域や社会との関わりを大切に、主体的に課題解決に向けて取り組みながら学び、アウトプットとして自ら行動してためのアクションプランにつなげていく。また、令和2年度については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、様々な活動が制限され、いつもと違った環境の中で生じた課題もあった。その中で、生徒たちが自らできることを考えて発案し、課題解決のために行動するという取り組みを行った。

1 活動名(教科・領域)・学年

ちょっとしたボランティア(生徒会活動) 全学年

2 ESDを通して育みたい資質・能力

- 【意思・態度】協働する態度
- 【探究する力】社会参画力

3 活動の目標

- (1) 学校や地域の環境を整える意識をもつ。
- (2) 皆が快適に過ごすための課題を見付ける。
- (3) (2)の課題を解決するための活動を企画する。
- (4) 共同で作業する喜びと達成感を感じる。

4 計画の概要【全5時間】

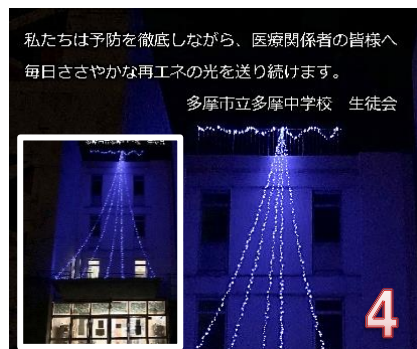
5 授業の紹介【6月のチョボラ】…校庭の草むしり

(1) 目標

- ア 全校生徒が、学校や地域の環境を整える意識をもつ。
- イ 生徒会が中心となって企画した、生徒や地域の人が快適に過ごすための活動に積極的に参加する。
- ウ 協働で取り組む喜びを知る。

(2) 活動の展開

企画	生徒会本部・中央委員会 学校が直面する課題を 考え提案。実現に向けて討議	1
立案	全校生徒への呼びかけ 生徒会新聞・生徒会朝礼 学校放送	2
実践	当日の運営 協力しての作業 集まった草の回収	3
実践	再エネを利用した医療関係者へ のメッセージ 地域のサポート	4



6 本活動を通して得られた成果と課題

□ 児童・生徒の学習の評価(意見・感想等)

- ・コロナで使われずに雑草だらけだった校庭がきれいになった。
- ・よりよい多摩中を作りたいとの思いが伝わって、大勢が参加してくれたことがよかった。
- ・これからも、多摩中に関心をもってもらえるように皆の意見を反映し、チョボラを活性化していきたい。

(1) 成果

課題意識をもった生徒会よりの発案を受けて、ボランティア意識をもつ生徒たちが協働し、意欲的に活動できた。

(2) 課題

全校の生徒に広めていく意識付けていく必要がある。

1 活動名(教科・領域)・学年

養蜂活動(部活動)・全学年

2 ESDを通して育みたい資質・能力

- 【知識・技能】情報を取得し、分析、活用する能力
- 【思考力】論理的な思考力(順序立てて考える力)

3 活動の目標

- (1)身の回りの環境維持・向上に関心をもつ。
- (2)生物活用への正しい知識・技能を習得する。
- (3)協同で作業することで自らの考えを深化させる。

4 活動計画【全4時間】

(1)目的

ア養蜂活動を通じて環境の維持・向上に関心をもつ。
イ地域の方々と協同で作業を行い、多世代間の交流を行う。

(2)活動の展開



導入	・活動内容の説明 ・関係者紹介 (講師、地域の方々等)	1
展開	①蜜蜂の飼育 ・蜂の観察 ・養蜂箱の維持作業 (清掃、管理等)	2
まとめ	②蜂蜜の採集 ・採集、採蜜作業	3
まとめ	・瓶詰め作業 ・試食会 ・振り返り	4



5 本活動を通して得られた成果と課題

□児童・生徒の学習の評価(意見・感想等)

「いい匂いだった!」(2年男子)
 「体験ができてよかった」(1年男子)



(1)成果

養蜂活動を通じて身の回りの環境に関心を持ち、意欲的に蜂蜜採集を行うことができた。また地域学校協働本部等の協力を得ながら、地域と連携して活動することができた。

(2)課題

夏季下旬から活動を始めたため短い期間での活動になった。今季冬を越せたら、春に瓶詰めのラベル貼りや販売など、さらに企業との連携や販売など、生徒の創造力の育成につなげていきたい。

1 単元名(教科・領域)・学年

「見つめよう環境問題」(総合的な学習の時間)
第5学年

2 ESDを通して育みたい資質・能力

- 【意思・態度】合意形成し協力・協働する態度
- 【思考力】論理的な思考力(順序立てて考える力)



3 単元の目標

- (1) 環境に関する様々な問題があることを知る。
- (2) 温暖化の原因を知り、温暖化に対する社会の取り組みを調べるとともに、自分たちにできることを考え、実践する。



4 単元計画の概要【全70時間】

(1)身の回りの環境を見つめよう

4年生の時の多摩川に関する学びを通して関心をもった環境問題をはじめ、身の回りの環境問題に目を向ける。



(3)自分たちにできること

自分たちの将来と環境問題を結び付けて考え、解決に向けて自分たちにできることを考える。



(2) 環境問題について調べよう

地球温暖化の問題など、もっと知りたいことや疑問に思ったことを基に課題を作り、調べる。また、調べて分かったことや考えたことをまとめ発表する。

(4)自分たちで環境を守ろう

自分たちにできるエコな活動を実践するとともに、発信を通してより多くの人と一緒にエコな活動に取り組むことを目指す。



5 授業の紹介【今何ができるかを考える 第63時】

(1) 本時の目標

ア 友達の実践を知るとともに、困っていることをどう乗り越えるか、一緒に考え、アドバイスしようとする。

イ 自分たちの取り組みを検証し、改善方法を考える。

(2) 授業の展開

導入

グループごとに取り組んでいる実践を確認する。
(クラス)

1

展開

①グループごとに、活動の進捗状況や、困っていることを報告し、共有する。
(クラス)

2

②お互いのグループの実践への感想や、困っていることへのアドバイスなどを出し合う。

3

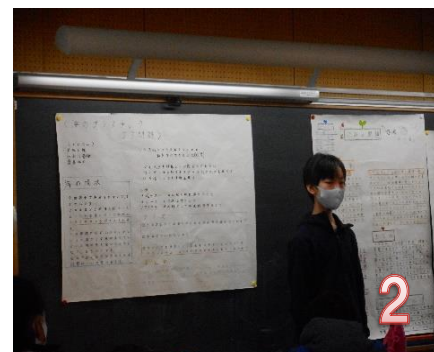
③グループごとに、自分たちの実践の改善点やこれからの実践について話し合う。
(グループ)

4

まとめ

活動報告を通しての感想を交流するとともに、自分の活動を振り返り、明日からの実践に生かす。

5



6 本単元を通して得られた成果と課題

□児童の学習の評価(意見・感想等)

- ・地球温暖化とごみ問題について詳しく調べていたので、とても分かりやすかった。
- ・冷房や暖房で二酸化炭素を出していることは知らなかったので、自分たちが普段使っているものを見直すきっかけになった。
- ・自然界で作られている酸素よりも、人間が出す二酸化炭素の量が上回っていることについて具体的な数値を発表していたので分かりやすかった。
- ・地球温暖化について私たちが取り組める身近なことが分かった。
- ・小さなことでも継続して取り組んでいくことが大切だと思った。

(1) 成果

- ・自分たちができることを具体的に紹介し合うことができ、自分事として問題提起できるようになった。
- ・自分たちで課題や解決策を見付けることができた。

(2) 課題

- ・実体験がなかなかなく、現実の問題として身近に感じる環境問題が少ない。
- ・共有の場面において、相手意識をもっともって発表する必要がある。

1 単元名(教科・領域)・学年

わたしたちの生活と工業生産

「これからの工業生産とわたしたち」(社会科)・第5学年

2 ESDを通して育みたい資質・能力

■【意志・態度】困難を乗り越える意志
持続可能な開発への価値観

■【探究する力】地域や社会の活動に参加する力

*単元を通して育みたい具体的な資質・能力

- ・よりよい解決策を見付けようと粘り強く取り組む力
- ・友達との交流を通して、自分の考えを広めたり深めたりする力
- ・必要な情報を結び付ける力



3 単元の目標

- (1)我が国で様々な工業生産が行われていることを調べたり読み取ったりし、工業生産の課題や現状を踏まえ、社会の変化に対応した新しい技術の開発などが重要であることを理解することができる。
- (2)工業生産と国民生活との関連を捉え、我が国の工業生産の現状からこれからの工業の発展について考え、表現することができる。
- (3)主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、学習したことをもとにこれからの工業の発展について考えようとする態度を養う。

4 単元計画の概要【全26時間】

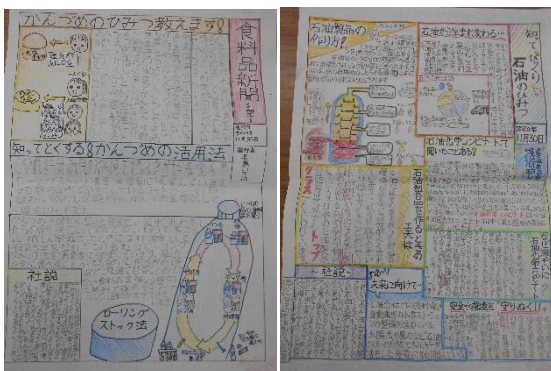
(1)くらしを支える工業生産

- ・日本の工業生産の特色や大工場の仕組みについて調べてまとめる。



(2) 工業の工夫についてまとめる。

- ・様々な工業について、インターネットや資料を用いて調べ新聞にまとめ発信する。



(3)これからの工業生産とわたしたち

- ・今までの学習を生かし、これからの日本の工業生産に大切なことを話し合う。



(4)実際の会社の取り組みを知る。

- ・オンライン学習を通して実際の企業がどのような取り組みを行っているのか学ぶ。



5 授業の紹介

【これからの日本の工業生産について考えよう 第23・24時】

(1) 本時の目標

- ア 工業生産における課題をそれぞれの立場で考え、よりよい解決策を見付けようと粘り強く取り組む。
- イ 友達との意見交流を通して、客観的に物事を捉え、これからの日本の工業生産について自分の考えを広めたり深めたりする。

(2) 授業の展開

導入

工業生産の特色や課題について振り返り、話し合いの課題を明確にする。

1

展開

①自分の考えを既習の内容と結び付けながら付箋に短くまとめる。

2

②グループで話し合い、考えをホワイトボードにまとめる。

3

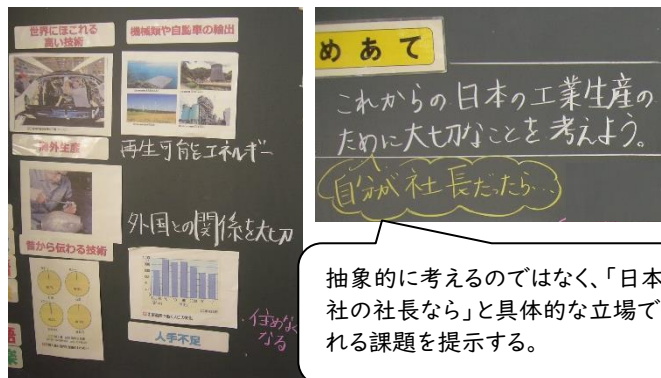
③学級全体でグループの意見について話し合う。

4

まとめ

本時の振り返りを行い自分自身のこれからの日本の工業生産についての考えをまとめる。

5



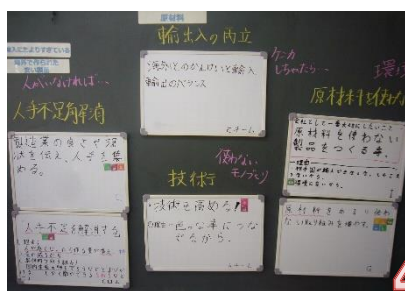
1

抽象的に考えるのではなく、「日本の会社の社長なら」と具体的な立場で考えられる課題を提示する。

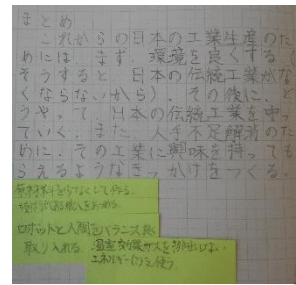


付箋を整理しながら友達との考えや日本の工業生産、SDGsと関連させ話し合い意見を一つにまとめる。

3



4



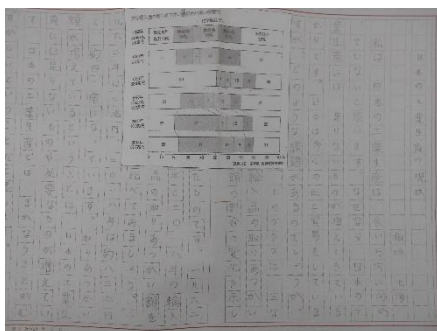
5

6 本単元を通して得られた成果と課題

□ 児童・生徒の学習の評価(意見・感想等)



付箋を使うことで自分の考えに自信がもてた。話しやすい。



国語の学習と関連させ「これからの日本の工業」についてグラフをもとに意見をまとめた。

(1) 成果

話し合い活動でSDGsのロゴカードを活用することで、児童の考えの中に自然とSDGsの様々な視点が見られるようになった。

(2) 課題

視点は明確にできるようになったが、自分の目指す具体的な行動にまでは至らなかった。

ESD推進校の成果と課題



1 各学校の成果と課題

□多摩中学校

【成果】

- 設定した資質・能力の育成を目指し、教科等横断的に取り組み、そのアウトプットとしての課題解決に向けた活動となった。
- 地域からの協力を得た取り組みで、生徒の地域との関わりに対する意識が高まった。

【課題】

- 生徒がSDGsを意識しながらの活動となる場面が少なかった。今後更に教科等横断的かつ意識的に設定した資質・能力の育成を目指すとともに、ESDカレンダーを活用しながら、生徒がSDGsを意識する場面を設定していく。

□多摩第一小学校

【成果】

- 課題に対し、友達との話し合いながら一緒に解決しようとするを通し、自分の考えを伝える力が伸びてきたとともに、困難な課題にも粘り強く乗り越えようとするようになった。
- 外部講師や他学年、友達等との関わりを通し、自分のものの見方や考え方を広げられるようになった。

【課題】

- コロナ禍のため、課題解決に向け、進んで地域や専門家から情報を得るために行動することが制限されてしまった。手紙や電話、メール、オンラインでの交流など、制限がある中でも人と関わり、人から学べるような場を紹介したり、実際にオンライン交流の機会をある程度設けたりするなどしてきたが、更に新たな関わり場を確保したい。

□東寺方小学校

【成果】

- 育てたい資質・能力を具体的に設定することで、どのような手だてを講じることが有効なのかが明確になった。
- 教科を横断的に捉えることで、教科で育った資質・能力を生かし発言や作文、話し合い活動などのアウトプットへとつながった。
- 高学年では、SDGsのロゴカードを各クラスに掲示したり、話し合い活動の中にカードを取り入れたりすることで、児童の意識の中にSDGsという言葉が定着した。

【課題】

- 発言や発表という形式のアウトプットは多くの児童が取り組んでいたが、行動に移していくより実践的なアウトプットは教師の働きかけが必要である。小学校高学年と中学校とのつながりを今後も取り組んでいきたい。



2 中学校区の取り組みの成果と課題

【成果】

- 小中学校 9 年間で育成する資質・能力を設定することで、9 年間のつながりや小中連携の意識をもつことができた。
- 小中学校ともに、身近なことに関連した課題解決に向けた取り組みを行うことができた。

【課題】

- 設定した資質・能力の育成を目指し、情報の共有や連携の意識をより高めていくとともに、資質・能力育成のための具体的な方法の検討を行う。また、各校の取り組みへの理解も深め、様々な学習内容を関連付けながら指導していく。
- 今年度、各校がアウトプットとして取り組んだ内容やその方法を生かしながら、より実践的な発信や行動につなげていくよう検討する。

3 次年度以降の取り組みについて

○小中連携したESDの推進

目指す児童像・生徒像を共有し、各校で課題解決に主体的に取り組む活動を設定する。また、課題解決に向けた取り組みやそのアウトプットの方法を連携して検討し、一貫性のあるものにしていく。

○SDGsを踏まえたESDの推進

設定した資質・能力の育成を目指す様々な教育活動の中で、児童生徒がSDGsを意識しながら取り組むことができるよう意図的にSDGsとの関連を示していく。また、設定された場面以外でも、自身の活動とSDGsの様々な項目とを広く関連付けて考えられるような姿を目指す。

○「多摩市子どもみらい会議」の充実

各校での取り組みが、より実践的な行動へとつながっていくこと及び、連携して育成した資質・能力を生かした発信となることを目指す。